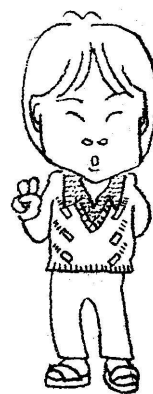


「さあ、みんなで、考えよう」

「まちづくり」は「ひとづくり」！

～ 「あったかい柘植」づくりのために「さあ、みんなで、考えよう」～

みなさんにとって柘植はどんなところですか？柘植の自慢は何ですか？このような問いかけに、みなさんはどのように答えるでしょうか？



柘植小中学校で大切にしていることばに「つげっこ」という言葉があります。柘植に住む子どもは自分の家の子だけでなく、地域に住むすべての子どもが自分の子どもであり、みんなで見守り、ともに成長していこうというすてきな考えです。この考えを、子どもから年配の方まで、すべての柘植に住むひとに広げて、みんなが安心して暮らせる、誇りを持って暮らせる柘植づくりをめざして、本年度もこの通信を発行していきます。家族やなかまといっしょに「さあ、みんなで、考えよう！」

「みんな心に神様を持っている！」

～かつてお話を聞いた熊野の長島りょうがんさんの講演よりまちづくりを考える～

あるとき、友だちと居酒屋で飲んでいて、ふと、「神様はいるか」という話になった。そのときに友だちはこんなことを話してくれた。ぼくの友だちのお母さんはがんをわずらっていた。もう高齢で、がんの進行も遅いこともあり、考えた末、母に告知をしていた。友だちはお母さんに「どこか行きたいところあったら、どこでも連れて行くから言って。」と言うと、お母さんは「皇居へ行きたい」と言った。熊野(三重県熊野市)から東京までは車で9時間くらいかかる。友だちは、ワゴン車のうしろに布団を敷き、お母さんは痛み止めを飲んで出発した。高速を走り、静岡を越え、東京が近づき首都高速にのった。友だちの車にはカーナビがついていなかったが、皇居は森だろうと、こんもりした森をめざして走った。やがてそれらしき森を見つけ、お母さんに「着いた」と言った。しかし、そこは明治神宮だった。お母さんは「あほが…。私はもうちょっと寝る」と言って眠った。雨が降ってきた。また車を走らせると、しばらくしてまっすぐな道に出た。ふと見ると、修学旅行で見た覚えのある皇居の二重橋が見えた。急いでお母さんに「皇居やで！二重橋やで！」と言ったが、お母さんは寝たままだだったので、通り過ぎてしまった。その道はずっとまっすぐの道だが、中央分離帯があり、なかなかUターンできるところ

がなく、しかたなくまっすぐ走っていたが、やがて中央分離帯が少し切れているところがあったので、そこでUターンした。すると、うしろから白バイが、けたたましくサイレンを鳴らして追いかけてきて、「前の車、止まりなさい！」と言った。車を横に止めると、警察官が「免許証を出しなさい。ここはUターン禁止です」と言った。熊野では見たことのないもの。しかたなく免許証を出すと、警察官は熊野という住所を見て、世界遺産で知っていたのか、「熊野ですか。遠いところから来たんですね。どうかしたんですか」と話しかけてくれた。普通は、交通違反をしたらすぐに交通違反切符をきる。しかし、この警察官は相手の気持ちに少し寄り添ってくれて、たずねてくれた。友だちが「うしろに母親が寝ています。最後の最後だと思って、母親が行きたいって言った皇居に連れてきました。田舎ものでUターン禁止のこととか知らず、すみませんでした」というと、この警察官は「ぼくにも福島で母親が寝ています。仕事で忙しく兄弟3人とも帰れていません。ぼくにも母親孝行させてもらってもいいですか」と言った。そして、「ぼくに着いてきてください」と言った。白バイは回転灯をまわしながら走り出した。友だちは、このまま警察へ連行されると思った。しかし、二重橋のところになると白バイをとめ、車の中に入ってきて寝ているお母さんに手を添え、抱き起こし二重橋の説明をしてくれた。そして、雨の中、皇居の説明などもていねいに案内してくれ、記念写真まで撮ってくれた。友だちは、お礼を言い、またまっすぐな道を走り、帰りはじめた。母親は後部座席でうしろを向き、座っていた。友だちは危ないので母親に注意すると、「あそこに神様がいます」と言った。友だちは「神様なんかおらへん。はよ前向いて座り」というと、「あそこに神様が立っているんや。おまえには見えへんのか？」と言って、手をあわせて座っていた。バックミラーで後方を見てみると、そこには白バイから降り、雨に濡れながら直立不動で敬礼している警察官の姿が映った。そこには、長い直線道路を見えなくなるまで微動だにせず敬礼を続けている警察官がいた。そのとき友だちも神様はいると思った。東京から帰ると、しばらくしてお母さんはなくなったが、なくなる前に「私は東京で神様に会ったから、幸せやった」と話した。友だちはぼくにこう言った。「神様はいると思う。少しだけ相手に寄り添うちょっとした優しさのなかにいる。みんなが心に神様を持っている。なのに、なんでみんなそれを出さへんのやろ？」人を大切にすること、差別はいけないこと。それはみんな知っている。でも大事なものは、それを行動に移せるかどうか。相手の心にちょっとだけ寄り添い、ちょっとした優しさを持てるかどうか。それができれば、友だち、家族、地域、学校、クラス、すべてが変わっていくと思う。いっぱい優しくならなくても、ちょっとだけ優しさを持てたらいいな。

ながしま こうえん
長島りょうがんさんの講演より

ぶんせき けいしとひろのぶ
文責・橋本浩信

がつ こうえん かい けんしゅうかい あんない
5月の講演会や研修会の案内

- 5月20日(土) 柘植地域人権啓発合同事業 フィールドワーク(近隣) (8:50 ~ 12:00)
 いがまち人権センターおよび前川区内
- 5月22日(月) 青山文化センター人権・解放講座 (19:30 ~) 青山文化センター
 「奈良市杏地区の取り組み ~ものづくりからひとづくり」(阪田はのみさん) [奈良市南人権文化センター]
- 5月25日(木) いがまち同研総会後の研修会 (20:10頃(総会終了後 ~)ふるさと会館いが
 「高齢者と人権」~安心して暮らせる地域をめざして~ (平井俊圭さん) [伊賀市社会福祉協議会]